

# 令和元年度 学力向上プラン

学校名 中央区立豊海小学校

## 学校の教育目標

人権尊重の精神に基づき、児童一人一人のよさや可能性を十分に伸ばすとともに、心豊かでたくましく生きる子どもの育成を目指し、区民の信頼と期待に応える調和のとれた教育を推進する。そのため、次の「教育目標」を掲げる。

## 学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

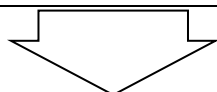
- ・一人一人の児童の個性や能力を生かし、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。
- ・確かな学力の向上を目指し、一人一人の児童のもつ資質や能力を把握し、個に応じた指導を工夫し、基礎的・基本的な内容を習得させ、それらを活用して探求できる魅力ある授業を実施する。

令和元年度「学習力サポートテスト」、「東京都の学力向上を図るための調査」及び「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	○「思考力・判断力」、「表現力」の領域に課題が見られる。 ・「書くこと」に関する領域において、自分の考えを正確に表現することを意識して、情報や言葉を吟味し、目的に合った文章を書けていない。 ・「読むこと」に関する領域において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる際、叙述と自分の考えがどのようにつながるのか関連付けて表現することが苦手な児童が多い。	文章を書いたり、読んだりする学習活動に対して受け身の姿勢で取り組んでいる。
算数・数学	○「思考力・判断力」、「表現力」に課題が見られる。 ・「知識・理解」、「数量や図形についての表現・処理」は概ね身に付いている。しかし、自分の考えを様々な方法（図、式、言葉、操作、表）で使って説明することが苦手な児童が多い。 ・領域によっては学力差が大きく開くものもある。	児童は、公式を覚え、当てはめることが大切であると考えの傾向があり、複数の方法で自分の考えを説明することのよさを実感する経験が不足している。
社会	○「思考力・判断力」、「表現力」に課題が見られる。 ・「社会的な事象についての知識・理解」については概ね身に付いている。しかし、資料から事実を読み取ることに留まってしまい、その資料が意味すること、問題の解決に向けて考えられることは何か等、資料を読み解き、自分の考えをもつことが苦手な児童が多い。	知識を身に付けることに意識が向く傾向があり、社会的な事象から立てられた学習問題を児童が自分事として捉えないまま学習に取り組んでいる。
理科	○「思考力・判断力」に課題が見られる。 ・実験や観察から得られた結果から考察して自分の考えをまとめたり、自分の言葉で表現したりすることが苦手な児童が多い。 ・「物質・エネルギー」に関する領域の平均正答率が区の平均正答率に比べて1.5ポイント低い。	実験・観察をすること自体に関心が集中し、どのような目的で実験や観察をするのか、その実験によってどのようなことが考えられるのかといったところまで意識できない。

体 育	<p>○「関心、意欲、態度」に課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の意識調査から、「すすんで運動をしている」と、回答した児童の割合が78%と低く、運動することに対して消極的な児童が多い。また、運動の種目に対する関心の偏りも見られ、運動領域によって能力の差が大きい児童も多い。</li> <li>・体力調査の結果から、「投げる」運動に課題が見られる。</li> </ul>	<p>体育科で学習する、運動領域それぞれの楽しさやよさを実感していないため、興味関心が偏ってしまっている。「投げる」運動については、重心の移動や下半身と上半身を連動させることを苦手とする傾向が見られる。</p>
-----	--	---

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	「学習規律」はすでに85%～90%定着できているが、100%を目指し、学びにむかう力を育てる。
②授業改善	学力調査等による現状を把握し、つまずきやすい内容を明確にして、重点的な指導や反復練習などを指導計画に位置付け基礎・基本の学習の定着率90%以上を目指す。
③教員の指導力	管理職による授業観察を行い、個々の教員の課題を明らかにし、教材の準備や指導技術、評価について、教員を指導することで、指導力の向上を目指す。
④家庭との連携	学校便りや保護者会で学力向上についての取組等を発信することにより、全ての児童が進んで家庭学習に取り組むことができるようにする。
⑤体力向上	なわとび月間や持久走月間における、各種目の個人記録が前年度を上回ることを目指す。



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	「次の授業に必要な用具を用意してから休み時間とし、授業開始までに着席して待つ」、「授業中に私語をしない」、「授業中に発言するときは返事をしてから立つ」など、基本となる学習規律を徹底し、落ち着いて学習に取り組むことができる環境をつくる。
取組Ⅱ	「人の話を聞く」ことの大切さを指導する。学級の全員が「自分の話を受け止めてもらえる」という実感から「もっと分かりやすく話したい」、「丁寧に説明したい」、「友達の考えから気付いたことを発表したい。」という意識を育てる。
取組Ⅲ	学ぶ意欲を高め、考えをより確かにするノート指導を行う。特に技能習得、整理保存、探求思考、振り返り、これら4つの機能がノート指導の中で徹底できるようにする。

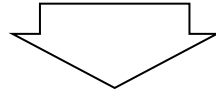
②授業改善	
取組Ⅰ	正答率が低い学力調査の問題について、出題意図と児童の誤答を分析し、授業改善の視点と児童に身に付けさせたい力を明確にする。
取組Ⅱ	児童の主体的な学びを引き出すために、教材に合った学習課題を設定したり、学習を通して身に付けた力を児童自らが実感できるように振り返りの時間を設定したりするなど学習過程の工夫をする。
取組Ⅲ	児童が思考の広がりを実感するために目的や方法を明確にした話し合い活動を充実させ、対話的で深い学びにつながる授業づくりをしていく。そのために教材研究の際には、児童の思考の流れを想定し、それを基に授業をシミュレーションし、深まりや広がりを助ける手だてを講じる。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	学年で教材研究を行い、共通理解のもと学習指導にあたる。教材の特性を踏まえ、身に付けさせたい力を明確にし、児童の学習状況に合わせた単元を設計する。
取組Ⅱ	児童の実態に応じて学年合同の授業を行ったり、一部の教科において教科担任制を取り入れたりするなど、柔軟な学習指導を展開し、指導力の向上を図る。
取組Ⅲ	児童が思考の広がりを実感するために目的や方法を明確にした話し合い活動を充実させ、対話的で深い学びにつながる授業づくりをしていく。そのために教材研究の際には、児童の思考の流れを想定し、それを基に授業をシミュレーションし、深まりや広がりを助ける手だてを講じる。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	生活習慣や学校のきまりについて豊海スタンダードを活用し、児童、保護者に分かりやすく具体的に提示する。
取組Ⅱ	宿題や家庭学習について、学年で分量や内容について共通理解を図る。児童に対し、内容や進め方と教師の思いを伝えると共に、保護者に対して家庭学習の啓発を行う。

## ⑤体力向上

取組Ⅰ	マイスクールスポーツでは、なわとび、持久走に継続的に取り組み、リズム感・調整力・持久力を育てる。また、仲間と協力し、工夫しながら運動する楽しさを味わわせ、目標に向かって、粘り強く、取り組む態度を育てる。
取組Ⅱ	なわとび、持久走の学校での取り組みをホームページや学校便り等で紹介し、家庭からの理解と協力を得て、児童の意欲喚起を継続して図る。
取組Ⅲ	体育の授業において、主たる運動につながる動きだけでなく、本校の児童の課題である「投げる」運動につながる動きを予備運動に取り入れる。



## 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<p>学年毎に担任が連携を取り、学習のルールを共有して指導にあたった結果、落ち着いて学習に取り組むことができた。これに伴って、「人の話を聞く」姿勢も育ち、児童一人一人の考えが学級に広まり、学習が深まる様子も見られた。</p>	<p>学習規律の改善を図ることができたが、学力向上にはすぐに結び付いていない。今年度の取り組みを継続しつつ、次年度は授業で学んだ内容を繰り返し練習したり、活用したりする時間を多く確保するなど理解がより定着する手だてを講じることが課題である。</p>
②授業改善	<p>校内研究「相手のことを考えて、表現できる子の育成」の達成に向けて、全教科・領域において対話的な学びを重視して授業を展開した結果、児童は相手意識をもって学習問題の解決を図り、自分の考えを積極的に伝えることができた。</p>	<p>友達と協働して学習を進めることが苦手な児童や話し合いに苦手意識がある児童への手だてを講じることが今後の課題である。新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」の視点も踏まえながら授業改善に取り組む。</p>
③教員の指導力	<p>学年で教材研究に取り組んだり、児童の実態に応じて一部教科担任制を導入したりするなどの工夫により、教員一人一人の専門性を生かし、日々の授業準備を通して指導力を向上させることができた。</p>	<p>教員の指導力を向上させていくためには研修する時間が必要である。行事を精選したり、校内研修日を設定したりすることで教材研究や打ち合わせを行う時間を確保すること、OJTをより活性化させることが今後の課題である。</p>
④家庭との連携	<p>学年便りや保護者会を通して児童の成長や課題など生活の様子を発信した。その際、豊海スタンダードに基づいてきまりを再度確認し家庭と共通理解を図ることができた。家庭学習については児童の実態に応じて学年で共通理解を図りながら実施した。</p>	<p>年度始めは意識している豊海スタンダードだが、学期中は意識されにくいことが課題である。豊海スタンダードを全教室に掲示したり、全校朝会での週目標についての指導でも関連させたりするなど活用していく。また、保護者会やPTA定例会等で保護者が感じる課題を豊海スタンダードに取り入れるなど、毎年各項目を見直していく必要がある。</p>
⑤体力向上	<p>マイスクールスポーツをきっかけに、自主的に練習に取り組む児童が多く見られた。長縄月間後にも外遊びの一つとして定着しつつある。「投げる」運動については、第2学年で外部講師を招いて投げ方教室を開催し、基礎的なことを学びこれからの学習や運動に生かすことができるようにした。各学年において予備運動の際、投げる運動につながる動きを取り入れて、投げる力の向上に向けて取り組むことができた。</p>	<p>より児童の体力向上を図るために環境を整えることが課題である。限られた時間の中で効果を出すために、次年度はマイスクールスポーツを縄跳びに絞り、3学期に行う長縄記録会に向けて年間を通じて取り組むことができるように検討する。また、投げる力の向上に向けて、今後も継続して指導を行う。投げ方教室を体力テスト前に実施できるか検討し、児童の意欲がより高まるようにする。また、複数の学年で実施し、繰り返し基礎的なことを学ぶことができるよう検討する。</p>